

新しいお買い物スタイル「長崎ぶらっと」 ～ 浜んまちが実現した支払い方法の多様化 ～

長崎市内中心部に位置する“浜んまち”商店街に、従来からのクレジットカード決済に加え「Edy」「iD」「銀聯」の3方式にも対応した新しい決済端末約300台が導入され、買い物客はこれらにより支払いを行うことが可能となった(注)。この3方式が同時にこれだけの規模で商店街に導入されたのは、全国でも初めてのことである。

商店街では支払方法のバリエーションが広がったこの仕組みに「長崎ぶらっと」という愛称をつけ、新しい買い物のスタイルとして買い物客にアピールしている。

(注) 事業主体は01年に設立された「長崎浜んまち商店街振興組合連合会（浜振連）」で、“浜んまち”と呼ばれる長崎市内中心商店街を成す5商店街（浜市、観光通、鍛冶市、浜市電車通、浜市万屋通り）の各商店街振興組合により構成されている。

導入の経緯

もともと浜んまち商店街では、多機能カード事業としてクレジット・デビット一括処理事業（各店舗で利用されたクレジットカード各社やデビットカードとの決済および付随事務を店舗ごとではなく一括して行うもの）が導入されていた。今回、端末やシステムの更改時期を迎えたことから、急速に普及し始めた電子マネーや、増加する中国人観光客への対応を見据えて銀聯カードへの対応をはかることになったのである。

「長崎ぶらっと」という愛称はこのシステム更改を機に名付けられたもので、独自のロゴやマークも作成し、各種広告媒体や商店街内の掲示、ウェブサイトなどを通じて市民や観光客の認知度向上に努めているところである。

地元客、観光客の利便性向上をめざすEdy、iD

EdyとiDはいずれも電子マネーの一種で、ICチップを内蔵したカードや携帯電話（おサイフケータイ）を端末にかざすだけで支払ができる。両者には、Edyが前払方式（事前に利用金額をチャージしておくもの）、iDは後払方式（クレジットカードのように使用した分を後で精算するもの）という点で違いがあるが、いずれも近年普及が進んでおり、今回の対応により地元客・観光客を問わず商店街利用の際の利便性が一段と向上した。

中国で普及の進む銀聯

一方、銀聯とは中国人民銀行（中国の中央銀行にあたる）の主導で2002年に設立された中国国内の銀行を結ぶ決済ネットワークの名称で、中国の銀行が発行するキャッシュカードには銀聯のロゴマークが付けられ、銀聯カードと称されている。銀聯カードは一般のクレジットカードの利用と同じように銀聯マークのある店舗で支払に使うことができ、利用と同時に銀行の残高から代金が引き落とされる仕組み（デビットカード）となっている。

中国においてはクレジットカードの普及度合いが相対的に低いのに対し、銀聯カードは現在約15億枚発行されており、利用できる店舗も74万店（07年12月時点）にのぼるなど中国国内では現金に次ぐ一般的な支払方法となっている。また、銀聯カードは海外の加盟店でも利用できるが、その場合の利用額が外貨持ち出し制限（五千米ドル相当まで）の枠外となることも、海外を旅行する中国人にとって大きなメリットとなっている。

このようなことから日本国内でも銀聯に対応する店舗が増えつつあり、利用額も急増している。今回浜んまちにおいて銀聯カード決済も導入されたのはこうした動向に対応したものである。

今後について

事業主体である浜振連によれば、「長崎ぶらっと」への加盟は必ずしも浜んまちの5商店街に限定するものとは考えていないとのことであり、現に同商店街以外にも利用可能な店舗がある。今後、加盟店舗網が充実し面としての広がりがさらに進めば、地元の買い物客や観光客にとっての利便性が一層高まるとともに、観光立県を標榜する本県にとっても国内外にその先進性をアピールするうえで意義深いものとなろう。

また、JR東日本が発行するSuicaのように交通系の電子マネーが買い物にも利用できるなど、一般に電子マネーは多機能化が可能であり、また多機能化によりさらに利用しやすくなる。例えば本県には既に一定の普及をみている「長崎スマートカード」があることから、何らかの形で連携が可能になれば、地域公共交通機関と地元商店街双方の魅力を向上させることにも繋がるのではないだろうか。

（野邊 幸昌）